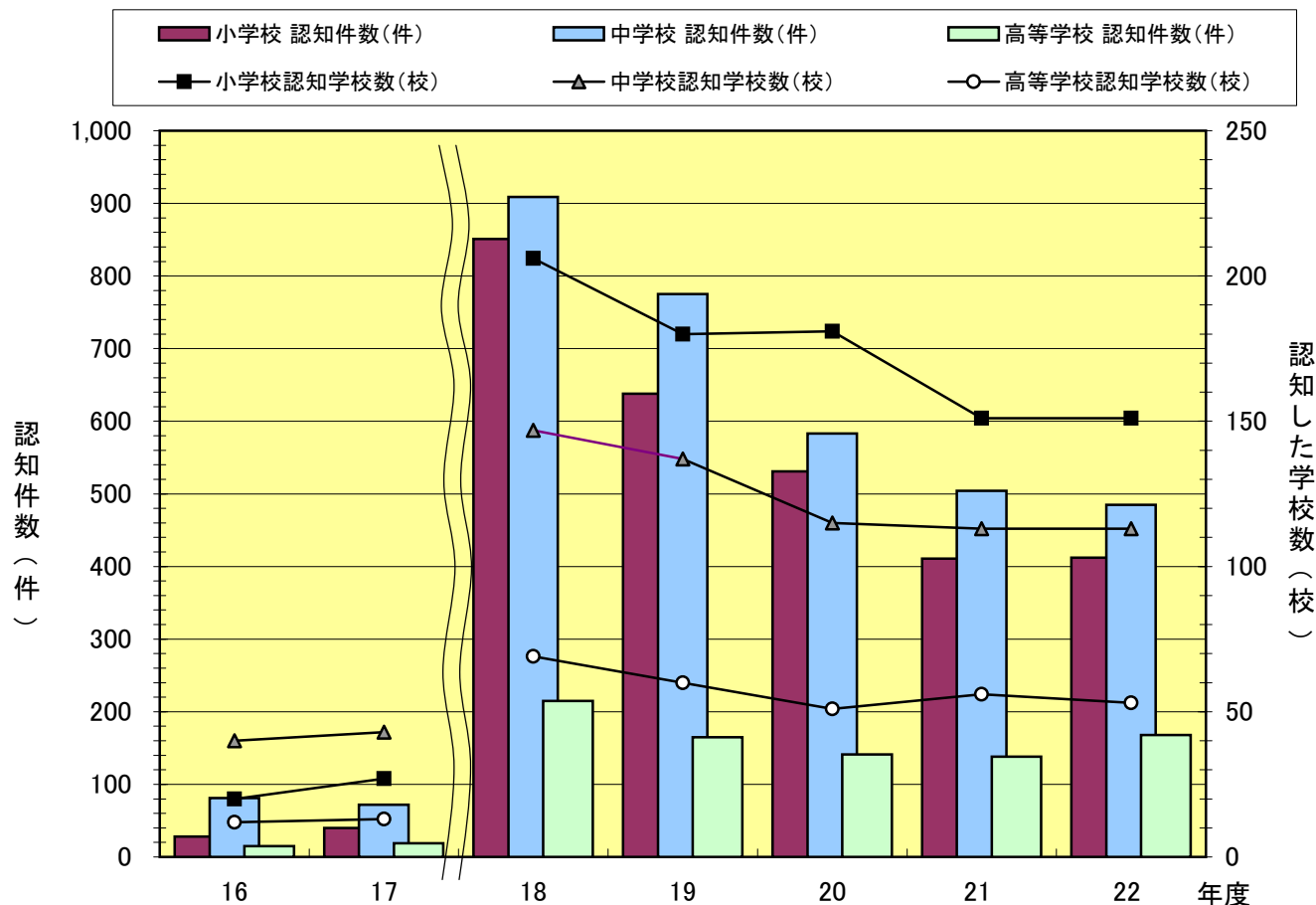


# 平成22年度児童生徒のいじめの状況について

教学指導課心の支援室

## 1 校種別認知件数及び認知した学校数の推移



	年度	16	17	18	19	20	21	22	(構成比%)
小学校	認知した学校数(校)	20	27	206	180	181	151	151	(38.5)
	認知件数(件)	28	40	851	638	531	411	412	
中学校	認知した学校数(校)	40	43	147	137	115	113	113	(56.5)
	認知件数(件)	81	72	909	775	583	504	485	
高等学校	認知した学校数(校)	12	13	69	60	51	56	53	(43.4)
	認知件数(件)	15	19	215	165	141	138	168	
特別支援学校	認知した学校数(校)	1	1	6	1	1	2	2	(10.5)
	認知件数(件)	1	3	6	1	1	2	2	
合計	認知した学校数(校)	73	84	428	378	348	322	319	(43.5)
	認知件数(件)	125	134	1,981	1,579	1,256	1,055	1,067	

- (注) 1 調査名：文部科学省「平成22年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」  
 2 平成22年度の調査対象校は、県内国立・公立・私立の小・中・高等学校・特別支援学校計733校  
 3 平成18年度の調査から、いじめの定義が変更となった。  
 4 構成比＝いじめの認知した学校数／学校数×100

## 2 いじめ認知件数の学年・男女別内訳

〔単位：件〕

		1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計		
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	計
小学校		10	8	17	13	33	35	44	46	64	41	63	38	231	181	412
中学校		111	110	92	94	46	32							249	236	485
高等学校		72	42	26	17	3	8							101	67	168
特別 支援 学校	小学部	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
	中学部	0	0	0	0	0	0							0	0	0
	高等部	1	0	0	0	0	0							1	0	1
合 計														583	484	1,067

## 3 いじめ発見のきっかけ

〔単位：件、％〕

区 分	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計 (構成比)
本人からの訴え	85	180	81	2	348 (32.6)
本人の保護者からの訴え	105	99	19	0	223 (20.9)
学級担任が発見	117	67	15	0	199 (18.7)
アンケート調査などの学校の取組により発見	26	49	13	0	88 (8.2)
他の児童生徒からの情報	14	38	18	0	70 (6.6)
学級担任以外の教職員が発見	21	26	12	0	59 (5.5)
他の保護者からの情報	26	17	5	0	48 (4.5)
養護教諭が発見	8	7	2	0	17 (1.6)
地域の住民からの情報	2	1	0	0	3 (0.3)
学校以外の関係機関からの情報	7	0	0	0	7 (0.7)
スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	1	0	0	0	1 (0.1)
その他(匿名による投書など)	0	1	3	0	4 (0.4)
計	412	485	168	2	1,067 (100.0)

## 4 いじめの態様 (複数回答)

〔単位：件、％〕

区 分	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計 (構成比)
ひやかしやからかい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる。	299	345	85	1	730 (68.4)
仲間はずれ、集団による無視をされる。	101	105	17	0	223 (20.9)
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	102	71	29	1	203 (19.0)
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	28	41	20	0	89 (8.3)
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	26	33	20	0	79 (7.4)
ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	16	30	12	0	58 (5.4)
パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	2	13	37	0	52 (4.9)
金品をたかられる。	8	11	29	0	48 (4.5)
その他	6	21	8	0	35 (3.3)
計	588	670	257	2	1,517

(注) 構成比については、各区分における「いじめ認知件数の総数」に対する割合を示す。

## 5 いじめの現在の状況

区分		解消した	一定の解決が図られたが、継続中	解決に向けて取組中	他校への転校、退学等	計
		率(%)	率(%)	率(%)	率(%)	件数
小学校	県	77.9	18.2	3.2	0.7	412
	国	81.3	14.7	3.5	0.5	35,988
中学校	県	73.8	20.0	5.4	0.8	485
	国	76.7	17.5	5.0	0.8	32,348
高等学校	県	83.3	10.1	1.8	4.8	168
	国	79.4	11.7	4.7	4.3	6,617
特別支援学校	県	50.0	50.0	0	0	2
	国	75.7	20.8	2.3	1.2	342
合計	県	76.9	17.8	3.9	1.4	1,067
	国	79.1	15.7	4.3	1.0	75,295

## 6 いじめの日常的な実態把握のために、学校が直接児童生徒に対し行った具体的な方法〔単位：％〕 〔複数回答〕

区 分		小 学 校	中 学 校	高等学校	特別支援学校	計
アンケート調査の実施	県	84.0	88.9	57.4	5.3	78.8
	国	96.3	92.8	71.7	44.4	90.4
個別面談の実施	県	79.6	96.5	86.1	73.7	85.1
	国	79.5	92.3	84.1	66.0	83.4
「個人ノート」や「生活ノート」といったような教職員と児童生徒との間で日常的に行われている日記等	県	87.4	95.5	6.6	57.9	75.2
	国	64.0	75.3	11.2	43.1	58.9
家庭訪問	県	56.4	72.2	35.2	10.5	56.0
	国	62.4	68.1	27.1	39.7	58.3
その他	県	8.2	6.6	5.7	15.8	7.6
	国	7.6	7.3	6.8	18.9	7.7

いじめの認知件数は前年と比較して、約１％増加した。男女とも中学校１年生で最大となる。いじめ発見のきっかけは、主に「本人からの訴え」、「本人の保護者からの訴え」、「学級担任が発見」、「アンケート調査などの学校の取組により発見」の順に多く、担任や学校の発見の割合が３分の１である。

いじめの態様は、「ひやかしやからかい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる」が３分の２を占める。続いて、「仲間はずれ、集団による無視をされる」が多かった。高等学校では、「パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる」が２番目となっている。

いじめの現在の状況は、「解消した」が７６．９％である。いじめの日常的な実態把握の取組として、アンケートの実施をしている学校は、７８．８％であり、「個人ノートや生活ノートなど教職員と児童生徒との間で日常的に行われている日記等」は７５．２％である。

## 7 課題と今後の対応

### (1) 現状

- 平成22年度の認知件数は、前年度からほぼ横ばいとなっている。
- 高等学校の認知件数が増加した。
- パソコンや携帯電話等によるいじめが高校で多い。

### (2) 課題

- いじめの早期発見と解消
- いじめを許さない学校・学級づくり
- パソコンや携帯電話を利用したいじめへの対応

### (3) 今後の対応

- いじめの未然防止と児童生徒のコミュニケーション能力の育成
  - ・ 「いじめは人間として絶対許されない」という意識を深め、人権教育や道徳教育を推進
  - ・ 発達段階の特徴を捉え、遊びや異年齢集団の交流などを通した、いじめを許さない集団づくりと人間関係づくり
  - ・ 携帯電話やインターネット利用におけるメディアリテラシーおよび情報モラル教育の推進
- いじめの早期発見・迅速な対応のための相談体制、支援体制の充実
  - ・ 日常の教育活動を通した児童生徒理解に基づく信頼関係の構築
  - ・ スクールカウンセラーの配置、24時間いじめ相談電話、こどもの権利支援センターによる相談
  - ・ 人権教育講師（いじめの被害者や関係者）の学校への派遣
- いじめ問題に係る校内指導体制の確立
  - ・ いじめは「どの学校、どの子にも起こり得る」という基本認識を持ち、いじめられた児童生徒の立場に寄り添った問題解決
  - ・ いじめる児童生徒に対する毅然とした対応と粘り強い指導
  - ・ いじめ等対策委員会（学校）等におけるアンケート調査や保護者等との連携